

平成 30 年 安孫子賞

(昭和 35 年創設 第 59 回)

○久保 隆幸 殿 (湧別町、低コスト・高収益酪農経営)

昭和 44 年に就農。平成 4 年～22 年 湧別町農協理事、平成 15 年～21 年 湧別町議会議員、平成 23 年～30 年 湧別町酪農ヘルパー組合長を歴任。平成 7 年 北海道指導農業士に認定、平成 13 年～26 年 遠湧地区・オホーツク管内指導農業士・農業士会会長、北海道指導農業士協会理事。

低コスト・高収益な酪農経営に手腕を発揮した表彰に値する具体的な業績は次の通りである。

(1) 低コストを基本とした経営方針

「自己資金で設備投資をおこない、施設・機械は長期間使用する」ことをモットーに、古い牛舎を増改築しながら、定期的な石灰塗布や窓の清掃により衛生的な環境を維持し、機械は、無理をかけた使用を心がけ、保守管理を徹底して耐用年数を延ばすことで投資額の低減を図っている。

コーンサイレージの多給により自給飼料率を高めて、購入飼料費を低減して乳飼費 22%を維持し、長命連産により淘汰更新率を低く抑えつつ規模拡大を指向しないため、余剰の子牛や育成牛の売却も収入源で、個体の販売価格が高止まりもあり、平成 29 年度の所得率は 48.6%と極めて高いレベルとなっている。

経営・技術に創意工夫を加えることで、中規模酪農でも親子二代がゆとりを持って生活できる収益性の高い経営が可能なことを実証して、久保牧場の経営は学会等の発表や研修会で優良事例として紹介され、その評価も高い。

(2) 良質自給飼料生産の取り組みと地域への波及

重粘土壌にサブソイラーによる土壌物理性の改善、ホタテ貝殻を利用した暗渠の施工を行い、排水性の改良に長年取り組み、飼料作物の生産性が高いほ場を維持して、牧草や飼料用とうもろこしの品種試験や栽培試験に積極的に取り組み、多収技術の実践や地域への波及に努めた。

昭和 53 年には、地域に先駆けて牧草の初冬まき技術を実践、その有効性を明らかにして技術の普及を図り、地域全体の収量向上や労働ピークの分散化につなげ、平成 24 年には、地域の飼料作物生産における課題解決のため、普及センターや農業試験場などの関係機関に働きかけて「オホーツク自給飼料品質向上セミナー」を企画・開催して、積極的に地域全体に先端技術の導入を図った。

(3) 高泌乳牛群の作出と長命連産のための飼養管理

就農後から牛群改良に取り組み、地域で乳牛改良同志会を立ち上げ、平成 19 年には牛群審査における道内最高得点 (85.9 点) を獲得し、年間乳量 2 万 kg のスーパーカウも誕生させた。

飼養はコーン多給で、配合飼料の最大給与量は 9kg 程度に抑え、潔さ (牛舎内の定期的清掃、尾の管理等) やストレッサーを排除 (暑熱対策、豊富な敷料の利用等) して快適で疾病を抑える衛生的な管理を行うとともに、発情や個体の異常の見逃しがないように発情監視や個体の健康チェックは、1 日朝夕 2 回欠かさず行い、経産牛 1 頭あたりの年間乳量は 1 万 kg 程度、平均除籍産次は 5.5 産と、高泌乳と長命連産を実現している。

(4) 地域農業への貢献と担い手育成

指導農業士に認定後、遠湧地区指導農業士・農業士会を設立、地域や全道の同組織の役職も歴任し、平成 3 年からは道立農業大学校、農業高校、全国酪農ヘルパー組合等から多くの研修生や実習生を受け入れて、その 30 名以上が新規就農している。また、平成 23 年から湧別町酪農ヘルパー組合長を務め、従事者の労働改善やゆとりの創出を推進し、小中学生や観光客を対象に酪農体験学習

の場を提供して、「全国地域交流牧場・酪農教育ファーム」などに認定され、消費者との交流を通じて地域農業や酪農に対する理解促進を図っており、久保牧場で酪農体験を行った生徒がヘルパー組合に就職するなど、担い手の育成、農業の指導・教育・普及を通じ、地域や北海道農業の改良や発展に多大なる貢献をしている。

こうした自身の経営や地域産業振興への積極的取り組みと確かな実績に対し、「北海道知事顕彰」、「ホルスタイン農協体格優秀牛群表彰」、「湧別町産業経済功労表彰」、「北海道産業貢献賞、北海道知事感謝状」、「緑白綬有功章」など多数、受賞されている。